平成19年度　教育実習修了生へのアンケート結果

文学部教職課程
准教授　瀬戸口　昌　也
助　教　今　井　　航

1．アンケートの実施目的

平成19年11月30日（金）に、教育実習を終えた教職課程履修者に対して事後の実習指導が行われた。その際、アンケートを実施した。教職課程履修者は、次のようなことに対して自らどのように評価しているのであろうか。教育実習はどうであったのか、あるいは実習を終えてどんな変化があったのか、などである。またさらに、教員採用試験を受験したのかどうかについても問うことにした。このような問いは以前から抱かれてはいたものの、その答えは明確にはなっていなかった。そこで、アンケートを実施することにした。

2．方法

当日は、103名の履修者が対象となった。アンケートの内容は、大きく分けて**教育実習に関する評価**と**自己評価**の二点であった。いずれも、５段階評価を採用した。５段階は、以下のように設定した。

1 強くそう思う　2 そう思う　3 どちらともいえない　4 そう思わない　5 全くそう思わない

回答は、上記１から５までのうち一つだけ数字を選び、これに○印を付けてもらった。また、**その他**では教員採用試験に関する事項を調査した。さらに、**教職課程への要望**を自由に記述してもらった。

それぞれの具体的な事項は、以下の通りであった。

Ⅰ．教育実習に関する評価

①十分に教材研究を行い、授業にのぞんだ。	1	2	3	4	5
②学習指導案に従い、思い通りに授業をすることができた。	1	2	3	4	5
③熱意をもって、教育実習に取り組んだ。	1	2	3	4	5
④積極的に生徒に接触し、コミュニケーションをはかった。	1	2	3	4	5
⑤遅刻や欠席をせず、実習ノートなど提出物の提出期限を守った。	1	2	3	4	5

Ⅱ．自己評価

①教育実習中に学習指導案の作成能力が向上した。	1	2	3	4	5
②教育実習は、これからの人生にとって貴重な体験となった。	1	2	3	4	5
③大学卒業後は、教職関係（公・私立の非常勤・臨採・塾講師など）に就職したい。	1	2	3	4	5
④大学を卒業してから、教員採用試験を受けるつもりである。	1	2	3	4	5

Ⅲ．その他（YesかNoのどちらかに○印を付けてください）

①あなたは、今年度の教員採用試験を受けましたか。	Yes　・　No
②今年の６月中旬～７月中旬に教職教養対策講座があったことを知っていますか。	Yes　・　No
③あなたは、現時点で就職先が決まっていますか。	Yes　・　No

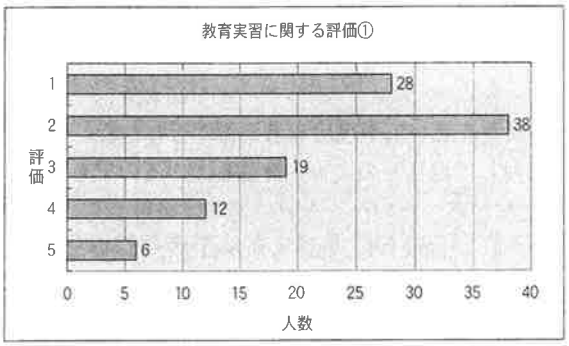
Ⅳ．教職課程への要望（下の空欄に教育実習の事前・事後指導や授業などについて自由に書いてください）

3．アンケート結果

それでは、項目ごとに結果をみてみよう。

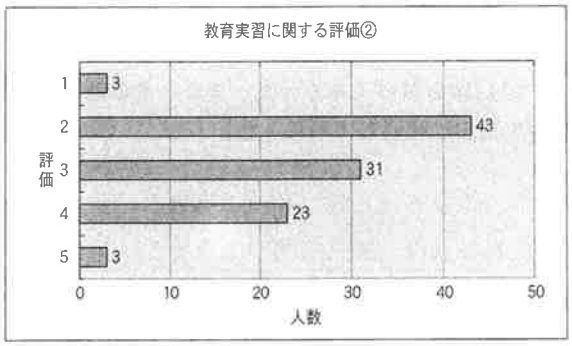
Ⅰ．教育実習に関する評価

①十分に教材研究を行い、授業にのぞんだ。



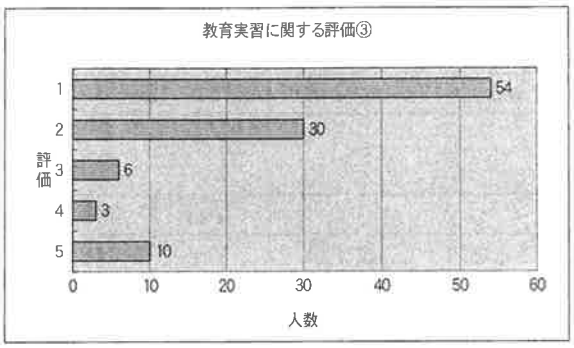
7割近く（66名）が十分に教材研究を行い、授業にのぞんだとしている。

②学習指導案に従い、思い通りに授業をすることができた。



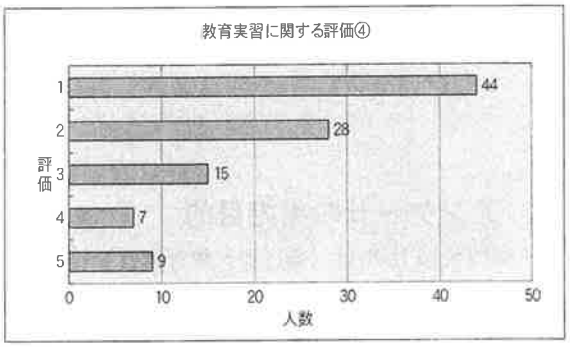
学習指導案に従い、思い通りに授業をすることができた者は46名である反面、半数以上（57名）がどちらともいえない、あるいは思い通りにはいかなかったとしている。

③熱意をもって、教育実習に取り組んだ。



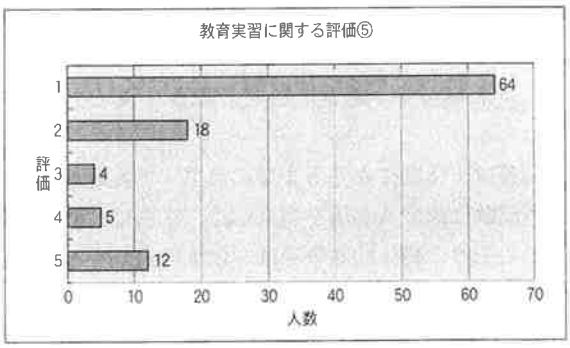
8割以上（84名）が熱意をもって、教育実習に取り組んだとしている。

④積極的に生徒に接触し、コミュニケーションをはかった。



7割近く（72名）が積極的に生徒に接触し、コミュニケーションをはかったとしている。

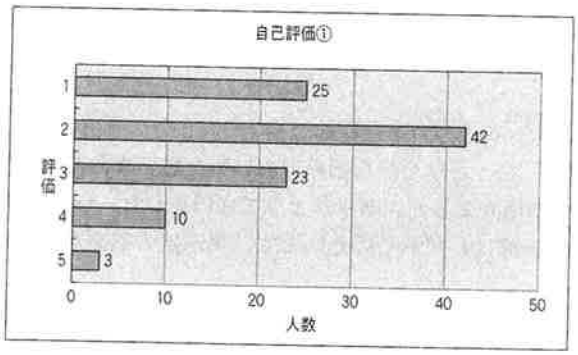
⑤遅刻や欠席をせず、実習ノートなど提出物の提出期限を守った。



8割近く（82名）が遅刻や欠席をせず、実習ノートなど提出物の提出期限を守ったとしている。一方で、少数ではあるが、そうではなかったとする回答もみられる。

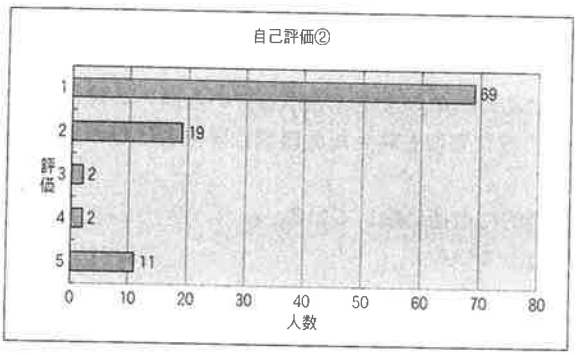
Ⅱ．自己評価

①教育実習中に学習指導案の作成能力が向上した。



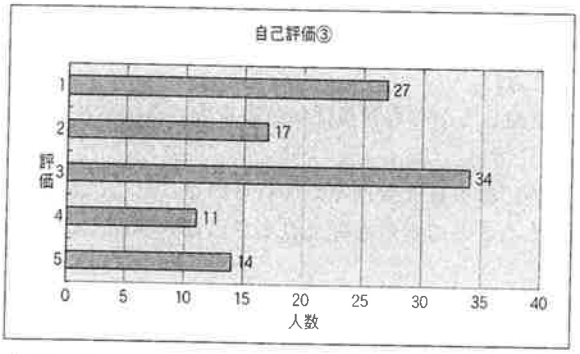
７割近く（67名）が教育実習中に学習指導案の作成能力が向上したとしている。

②教育実習は、これからの人生にとって貴重な体験となった。



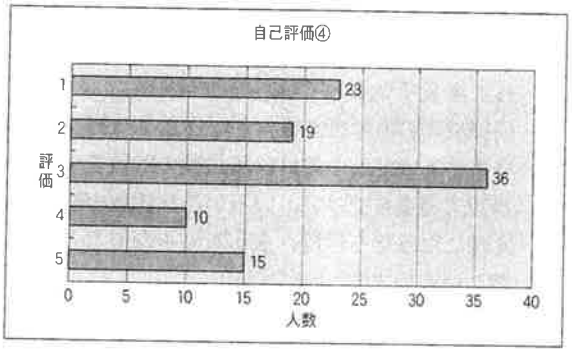
8割以上（88名）が教育実習はこれからの人生にとって貴重な体験となったとしている。

③大学卒業後は、教職関係に就職したい。



大学卒業後は、教職関係に就職したいとする者は、半数近い（44名）。

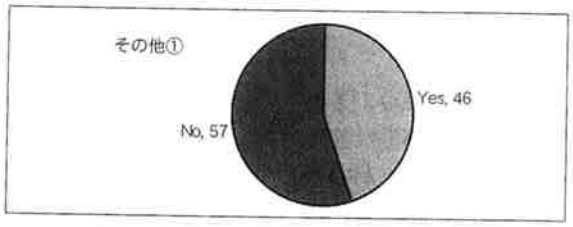
④大学を卒業してから、教員採用試験を受けるつもりである。



大学を卒業してからも、教員採用試験を受けるつもりの者は、半数近い（42名）。

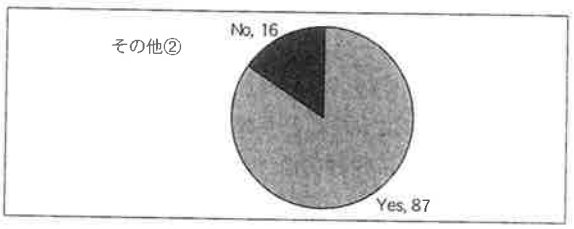
Ⅲ．その他

①あなたは、今年度の教員採用試験を受けましたか。



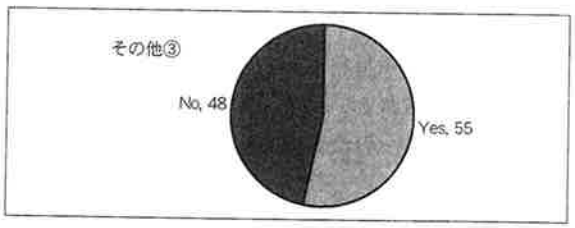
今年度の教員採用試験を受けた者は、半数近い（46名）。

②今年の6月中旬～7月中旬に教職教養対策講座があったことを知っていますか。



8割以上（87名）が今年の6月中旬～7月中旬に教職教養対策講座があったことを知っていたとしている。

③あなたは、現時点で就職先が決まっていますか。



Ⅳ. 教職課程への要望

芸術文化学科や人間関係学科をのぞく四学科で記述がみられた。そのなかから、学科ごとに二点を抜粋し、以下に掲載しておく。

・全体的に学生に対してもっと厳しく指導しても良いと思う。大半の学生が、とりあえず免許状を取れれば程度に考えているのでは。(国文学科)
・模擬授業の練習をするべきだと思う（先生方の意見もほしいので)。(国文学科)
・今年に入ってから教員採用試験の対策をするのではなく、もっと早くから始めてもいいと思いました。教職課程で授業を受けて、いろいろな課題や研究したい分野が増えました。ありがとうございました。(英文学科)
・４年になったら学校へ来る日も少なくなるので、連絡は正確にしてもらいたいです。掲示後の追記などは確認しにくいです。(英文学科)
・採用試験を受けない人、免許だけ取ろうと考えて履修されている方をどうにかしてほしい。本気で考えている人が迷惑で肩身が狭い気がする。(史学科)
・教育実習前にもっと模擬授業の機会を増やすべきだと思います（私は実習での授業が授業初体験でした)。(史学科)
・もっと前実習生の意見を聞いて教育実習に取り組みたかった。教育実習には魔物が潜んでいた。(文化財学科)
・もう少し授業の経験を積んでから実習に臨みたかった。基本的な事（チョークの持ち方など）を知らず困った。(文化財学科)

4．まとめ

教育実習はどうであったのか、あるいは終えてどんな結果があったのかなど、抱かれていた問いに対して、以上のように具体的な答えが得られた。ここから、平成19年度に教育実習を終えた教職課程履修者については、次のようにいうことができよう。

・十分に教材研究を行い、熱意をもって授業にのぞみ、積極的に生徒に接している。
・遅刻や欠席をせず、実習ノートなど提出物の提出期限を守っている。
・教育実習を通して学習指導案の作成能力が向上している。
・教育実習は今後の人生にとって貴重な体験になっている。

学生の身分といえども、ひとたび学校現場に入ったら生徒やその保護者からみれば、ひとりの教師である。そういう目で見られるし、さらにいえば教師であるが故に大きな期待も寄せられる。熱意をもって教育実習にのぞみ、これを通して学習指導案の作成能力が向上していることは、大いに評価されるべきであるし、これから教育実習にのぞむ後輩たちにとっても励みとなる。ひとつ苦言を呈するとすれば、遅刻や欠席をせず、実習ノートなど提出物の提出期限は、全員が守るべきことである。

さらに、次のようなこともわかった。

・大学卒業後に教職関係への就職を希望している者は、半数近い。
・平成19年度の教員採用試験を受けた者、あるいは大学を卒業してからも教員採用試験を受けるつもりの者も、半数近い。

先に指摘したが、教育実習は今後の人生にとって貴重な体験になったと受けとめられていることは、大いに評価されるべきである。しかしながら、教育職員免許状を取得することの意味を今よりもさらに一歩深く受けとめて欲しいとも思う。

教育職員免許状は、教員としての資質能力を保証するものである。しかし、平成18年7月の中央教育審議会の答申「今後の教員養成・免許制度の在り方について」によれば、これと学校現場や地域が教員に求めている資質能力との間に乖離が生じているという指摘もなされている。その資質能力を自らに問うてみてほしい。ひとつの機会が教員採用試験といえる。是非とも、もっと多くの教職課程履修者が受験にトライしてほしい。受験し、また受験し続けて自らの資質能力を問うなかで、「教職への道」は長く広い道へと育っていくのではないだろうか。